



国連環境計画 国際生物多様性の日 記念シンポジウムのお知らせ 生物多様性からみた森林利用 ー過去、現在、未来ー

ポイント

- ・国連環境計画が定める「国際生物多様性の日（5月22日）」を記念して、シンポジウムを開催します。
- ・人間による森林の利用が生物多様性に与える意義や影響について、その歴史、現状、今後の予測に関する講演を行います。

概要

独立行政法人森林総合研究所は、早稲田大学と共催で、国連環境計画・国際生物多様性の日記念シンポジウム「生物多様性からみた森林利用ー過去、現在、未来ー」を、下記のとおり開催します。

記

1. 日 時：平成24年5月22日（火）13:00～17:00
2. 場 所：早稲田大学大隈小講堂
3. 内 容：別紙のとおり
4. 参加費：無料

問い合わせ先など

独立行政法人 森林総合研究所 理事長 鈴木 和夫
研究推進責任者：森林総合研究所 研究コーディネータ 牧野 俊一
研究担当者：森林総合研究所 研究コーディネータ 牧野 俊一
広報担当者：森林総合研究所 企画部 研究情報科長 秦野 恭典
TEL：029-829-8130 FAX：029-873-0844

本資料は、林政記者クラブ、農林記者会、農政クラブ、筑波研究学園都市記者会に配付しています。

シンポジウム開催の背景

国際連合は、2000年の総会において、5月22日を国際生物多様性の日としました。生物多様性条約（CBD）の事務局が置かれている国連環境計画（UNEP）は、毎年この日に生物多様性を取り巻く問題に関する普及啓発を図るよう、各国に呼びかけています。

森林総合研究所では、森林の生物多様性に関する研究を長く継続してきたことから、他の研究機関の研究者も交え、これらの研究成果を広く一般の方々にも知っていただきたいと考え、今年も国際生物多様性の日を記念し、早稲田大学環境総合研究センターと共同でシンポジウムを開催いたします。

内容・意義

（内容）

日本は国土のおよそ7割は森林に覆われていますが、それらの森林は多かれ少なかれ、人間が手を加えてきたものです。現在の日本の森林は、人間と自然との相互作用の結果できあがったものにほかなりません。人間による森林の利用は、森林やその周囲の景観を変え、そこに住む生物の多様性にも様々な影響を与えてきました。生物多様性を脅かす危機には、土地開発や過剰な利用による危機（第一の危機）ばかりでなく、里山などの放置や過少利用による危機（第二の危機）もあることが注目されています。

このシンポジウムでは人間が森林を利用してきた歴史を振り返るとともに、林業が森林の生物多様性に及ぼす、「第一の危機」「第二の危機」の現状を分析し、今後の展望や将来予測等について講演を行います。また生物多様性保全の価値が注目されて久しい里山を持続的に管理していくための実践的な取り組みについての講演も行います。

これらの講演を通じて、森林と人間とのかかわりをより身近な問題として感じていただけたと思います。また関連分野の研究者などからのコメントも頂く予定です。なお、会場には関連する研究のポスターも展示される予定です。

本シンポジウムは一般の方々、関連分野に従事される行政機関の方々、研究者等、幅広い方々を対象としています。みなさま、お誘い合わせの上、ぜひお越しください。

（意義）

これらの講演によって、生物多様性への影響という観点から、森林と人間とのかかわりをより身近な問題として感じていただけたと思います。

別紙)

シンポジウムテーマ

「生物多様性からみた森林利用 ー過去、現在、未来ー」

講演内容

1. 森林利用は景観をどのように変えてきたか? ー北関東での調査からー
宮本麻子 (独立行政法人森林総合研究所)
2. 変わりゆく森林・林業、生物多様性: オーバーユースからアンダーユースへ
山浦悠一 (北海道大学)・岡裕泰 (独立行政法人森林総合研究所)
3. 里山林の生物多様性を育む「搾取」を継続させるには
津布久隆 (栃木県環境森林部)
4. シミュレータが予測する森林の生物多様性
岡部貴美子 (独立行政法人森林総合研究所)

コメンテータ

京都大学霊長類研究所 湯本貴和
早稲田大学 森川靖
林野庁 鈴木正勝

申込み方法

できるだけ事前登録をお願いします。当日参加も可能です。
登録用アドレス tayousei2012@ffpri.affrc.go.jp

以下も併せてご覧ください。

国際生物多様性の日記念シンポジウムのお知らせ
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2012/20120522tayousei/>